

# 読書の秋

私の秋は、すばり「読書の秋」です。

普段は自動車雑誌からファッショングル雑誌を見るのですが、本も読みます。見て楽しいのは写真のついた雑誌、でも、本は見るといつも「読む」物だと思います。

私が読む本はビジネス書が多いです。ハリー・ポッターのような仕事柄、サービス業に触れた本が多く、サービスやホスピタリティなどに関する本がほとんどです。私の仕事に関連した、葬儀屋さんに関連する書物は、書店であまりみかけないですが、この仕事はサービス業だと思っており、ホテル関連やテーマパークなどで行われている事に似ているのかな?と思つて読んでいます。

最近では、星野佳路さんが著した「星野リゾートの事件簿」という本を読みました。この本の内容は、星野リゾートが運営するホテルや各施設で実際にあつた苦情やクレームを、どう対処したか?など具体的な例を織り交ぜて書いている本です。

葬儀といふものは、長い準備期間がある結婚式と異なり、突然起つてしまします。そして時間にも精神的にも余裕がなく、けれども淡々と物事がすすんでいきます。今までの日常生活から突然、非日常に変わるわけで、ご遺族様にとつてみれば、亡くなられた方と、ゆっくりしたお別れが出来ないのでないかと感じております。そんな場面において、少しでもご遺族の方の想いに近づきたい、悲しみを癒し、「負担を軽減させ、少しでも安心できる環境を提供したいと思っております。



# 坊主頭

お坊さんはどうして髪の毛をそつて坊主頭になるんでしょう?



お釈迦様が出家した時、いつさいの飾りを棄てて苦から脱つすることを誓い、髪をそり落としたのがはじまりで、仏門に入る場合はそれに倣つて剃髪するようになつたそうです。でも、浄土真宗では、形式的なことよりも、心の純粹性を重んじて剃髪しない。だそうです。

わたし事で恐縮ですが、小さかつた子供の頃、坊主頭でした。

## 編集後記

地域によっては多少違いはありますが、最近の葬儀は、家族や親しい方で送る「家族葬」が増えていくと予測されています。都会などでは宗教色のない「葬儀」も増えているそうです。いわゆる「無宗教」と呼ばれるものです。葬儀という儀式を行わず、家族や親しい友人たちでお経も無い、「焼香も無い葬儀で、個人の好きな音楽を流したり、大好きなお花を作った祭壇を飾つたりしてお別れをします。

ただ、私自身が感じているのは、きちんと宗教者をお呼びし、「葬儀をしていただく」ことが大切ではないか?葬儀屋だから言つてゐるわけではありません。賛否両論があるかもしれません、葬儀は故人をあの世へ送る大切な儀式、告別式は、「会葬者と故人がお別れをする社会的儀礼です。無宗教葬も、否定はしません。それぞれの送り方があっていいと思います。ただ、一度つきりの、二回目は無い大事な方を送る儀式です。心を込めて送る事が大事なのではないでしょうか?